

1.  $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$  を  $f(x, y, z) := xy + z^2 - 1$  で定義し,  $S := f^{-1}(0)$  とおく.
- (1)  $\text{grad}(f)(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$  となる  $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$  を全て求めよ.
  - (2) (1) で求めた  $\mathbf{u}$  は  $S$  上にないことを示せ. このことから  $S$  は曲面であることを示せ.
  - (3)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in S$  に対し,  $T_{\mathbf{u}}S$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}S$  を表す方程式をそれぞれ求めよ.
  - (4)  $T_{\mathbf{u}}S$  を,  $\mathbf{0} \in T_{\mathbf{u}}S$  が  $\mathbf{u}$  に移るように平行移動して得られる平面を表す方程式を求めよ.
  - (5)  $S$  の概形を図示せよ. (ヒント:  $x, y$  を  $\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} := \begin{pmatrix} \cos \pi/4 & -\sin \pi/4 \\ \sin \pi/4 & \cos \pi/4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$  に変換するとよい)
  - (6) 上の (1)~(5) と同様のことを, 以下の関数について考えよ.
    - (i)  $f(x, y, z) := y^2 + (z-1)^2 - 2$
    - (ii)  $f(x, y, z) := 2x - 3y + 4z - 5$
    - (iii)  $f(x, y, z) := x^2 + y^2 - z^2 + 1$
    - (iv)  $f(x, y, z) := x^2 + \frac{y^2}{4} + \frac{z^2}{9} - 1$
2.  $D^{\circ} := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$  とする.  $V_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$  上の点  $\mathbf{u}$  の近くの局所座標として,  $\varphi: D^{\circ} \rightarrow V_z^+$ ,  $\varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$  を考える.
- (1)  $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$  などと略記する.  $\partial_s \varphi, \partial_t \varphi$  を計算せよ.
  - (2)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in V_z^+$  とする.  $\varphi(s, t) = \mathbf{u}$  となる  $(s, t) \in D^{\circ}$  を求めよ.
  - (3) (1), (2) を使って  $T_{\mathbf{u}}S^2$  を表す方程式を求めよ. また,  $\mathbf{0} \in T_{\mathbf{u}}S^2$  が  $p$  に移るよう  $T_{\mathbf{u}}S^2$  を平行移動して得られる平面の方程式を求めよ.
  - (4)  $\mathbf{n}: V_z^+ \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \frac{(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(s, t)}{\|(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(s, t)\|}$  で定義する. ただし  $\mathbf{u} \in V_z^+$  に対し,  $\varphi(s, t) = \mathbf{u}$  となる  $(s, t) \in D^{\circ}$  を選んでいる.  $\mathbf{n}$  は  $V_z^+$  上の連続な単位法ベクトル場であることを示せ.
  - (5)  $\psi: D^{\circ} \rightarrow V_z^+$  を,  $\psi(s, t) := (t, s, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$  で定義し,  $\tilde{\mathbf{n}}: V_z^+ \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbf{n}$  の定義中の  $\varphi$  を  $\psi$  で置き換えることにより定義する.  $\tilde{\mathbf{n}}$  は  $\mathbf{n}$  と逆の向きを定める, 即ち  $\tilde{\mathbf{n}} = -\mathbf{n}$  が成り立つことを示せ.
3. 円柱座標  $(r, \theta, z)$  で  $\{(r, \theta, z) \mid (r-2)^2 + z^2 = 1\}$  で表されるトーラスを  $T$  とおく.  $\varphi: U := (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbb{R}^3$  の  $xyz$  座標で  $\varphi(\alpha, \beta) := ((2 + \cos \alpha) \cos \beta, (2 + \cos \alpha) \sin \beta, \sin \alpha)$  で定義する.
- (1)  $\varphi(U) \subset T$  であることを示せ.
  - (2)  $\varphi$  は単射であること,  $D\varphi$  は常に階数 2 であることを示せ.
  - (3)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in \varphi(U)$  に対し,  $T_{\mathbf{u}}T$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}T$  をそれぞれ求めよ.
  - (4)  $f(x, y, z) := (x^2 + y^2 + z^2 + 3)^3 - 16(x^2 + y^2)$  に対し  $T = f^{-1}(0)$  であること (6/16 の講義, 演習を参照のこと) を用いて,  $\mathbf{u} \in T$  に対し  $T_{\mathbf{u}}T$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}T$  をそれぞれ求めよ.
4.  $\Omega \subset \mathbb{R}^2$  を開集合とし,  $f: \Omega \rightarrow \mathbb{R}$  を  $C^{\infty}$  級関数とする.  $f$  のグラフは向き付け可能な曲面であることを示せ.
5.  $\varphi: (-1, 1) \times [0, 2\pi] \rightarrow \mathbb{R}^3$  を  $\varphi(t, \theta) := ((2 + t \cos(\theta/2)) \cos \theta, (2 + t \cos(\theta/2)) \sin \theta, t \sin(\theta/2))$  で定義し, その像を  $M := \varphi((-1, 1) \times [0, 2\pi])$  とおく.
- (1)  $M$  を図示し,  $M$  はメビウスの帯であることを確かめよ.
  - (2)  $U := (-1, 1) \times (0, 2\pi)$  に対し,  $\varphi: U \rightarrow M$  は単射で,  $D\varphi$  の階数は常に 2 であることを示せ.
  - (3)  $\mathbf{u} = \varphi(t, \theta)$  ( $(t, \theta) \in U$ ) に対し  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \frac{(\partial_t \varphi \times \partial_{\theta} \varphi)(t, \theta)}{\|(\partial_t \varphi \times \partial_{\theta} \varphi)(t, \theta)\|}$  とおくと, 2. (4), (5) と同様に  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) \in T_{\mathbf{u}}^{\perp}M$  である.  $\lim_{\theta \downarrow 0} \mathbf{n}(\varphi(0, \theta))$  と  $\lim_{\theta \uparrow 2\pi} \mathbf{n}(\varphi(0, \theta))$  を比べよ. このことから  $M$  は向き付け可能ではないことを示せ.

(提出の必要はありません)

補足. 正則曲線  $l$  について,  $l(t_0)$  を通り  $\frac{dl}{dt}(t_0)$  に平行な直線のことを接線とよびました (演習問題 6 (5/19) の補足参照). これは,  $\frac{dl}{dt}(t_0) (\neq \mathbf{0})$  を基底とする 1 次元ベクトル空間 (を  $l(t_0)$  を通るよう平行移動したもの) とも言い換えられます.  $S$  を曲面とし,  $\varphi: U \rightarrow S$  を  $\mathbf{u} \in S$  の近くの局所座標とすると,  $\mathbf{u} = \varphi(s, t)$  における接平面は  $\partial_s \varphi(s, t)$  と  $\partial_t \varphi(s, t)$  を基底とする 2 次元ベクトル空間ですから, 接線の「2 次元版」とみなせることがわかります.

幾何入門 レポート問題 10 (2017 年 6 月 23 日)

担当 : 境 圭一

各自の学籍番号の下二桁の数を 3 で割った余りを  $a$  とおく. 例えば 16S1066U なら  $a = 0$ , 16S1077V なら  $a = 2$ , 16S1088W なら  $a = 1$ .

$S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + 2y^2 - z^2 = 1\}$  は曲面である (証明は不要).  $\mathbf{u} = (p, q, r) \in S$  における接平面  $T_{\mathbf{u}}S$  が  $\mathbf{n} := (a, 2, -1)$  と直交するとき,  $\mathbf{u}$  を求めよ.

(6/30 の 3 限開始時まで提出してください)

[http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17\\_geometry/17\\_geometry.html](http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17_geometry/17_geometry.html)